



3月11日午後2時46分頃、三陸沖を震源とする地震が発生しました。地震の規模を示すマグニチュードは、国内観測史上最大の9.0を記録しました。地震に伴い、津波や火災などの被害が多発。余震が何度も発生する中での救出活動や避難所での生活。被災地の人たちは、不安な日々を過ごしています。

大地震がいつ発生するか。それは誰にも分かりません。分からないからこそ、私たちは地震に備える必要があるのです。

地震が発生したとき、正しい情報を得ることは、命を守る手段の一つといえます。被害の大きさや被災地域を知れば、そこを避けて避難し、危険を回避することができるとは必ずしも限りません。また地震などの災害は、必ず地元で被害に遭うとは限りません。職場や慣れない土地で被害に遭った場合、安全な避難場所の情報を得ることも大切です。

メールやインターネットなど情報が溢れている現代では、正しい情報も、誤った情報も同じように発信されます。その中から、自分に必要で、正しい情報を得なければいけません。情報を手に入れる手段としては、テレビやラジオが有効です。また携帯電話は、情報発信・収集のほかに、音を使って自分の存在を知らせたり、手元を照らすライトとして使うこともできます。

家族は無事か!?

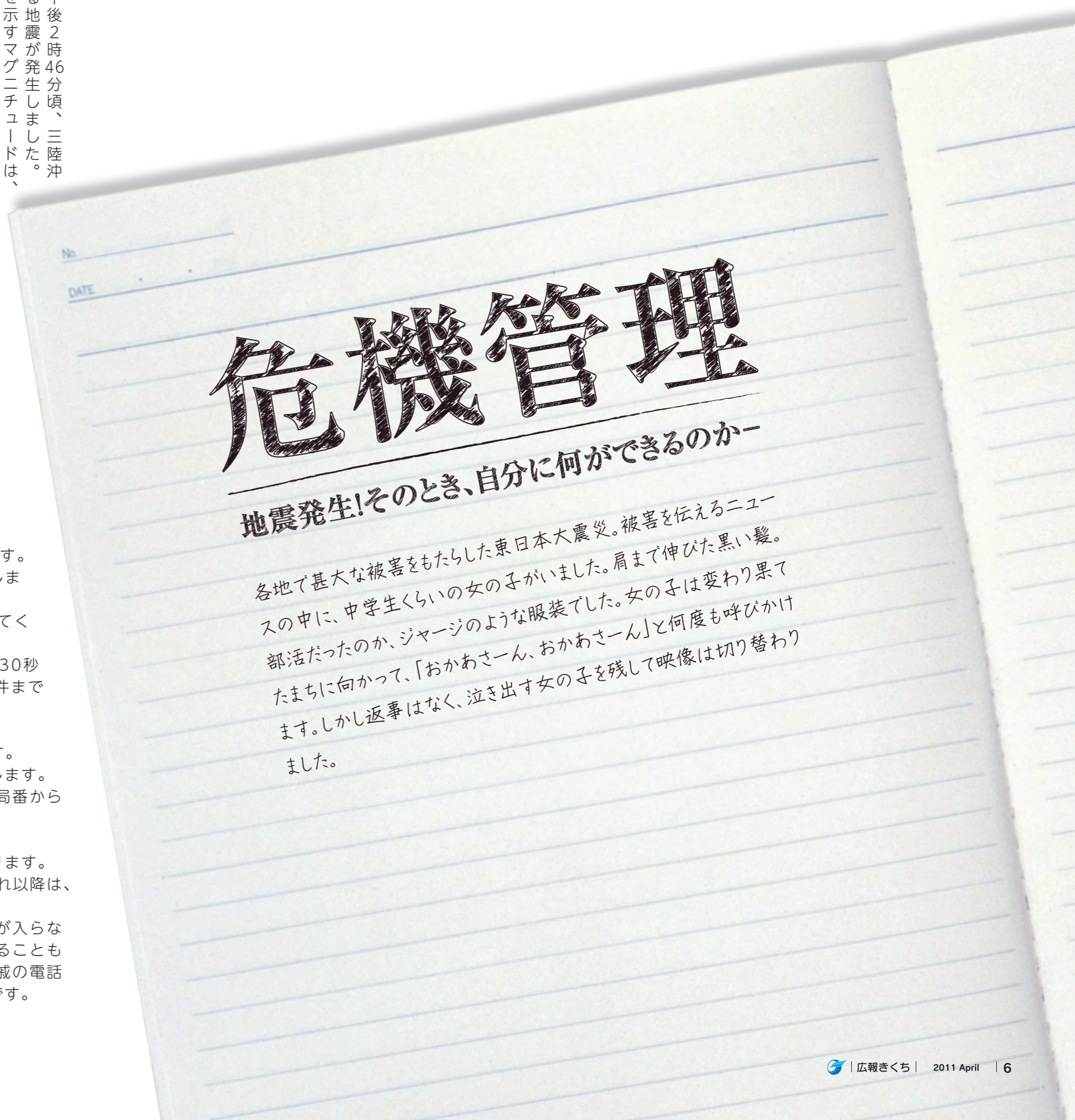
安否確認に災害用伝言ダイヤルを活用

地震などの大規模災害が発生すると、家族や知人の安否確認をしようと電話やメールが集中します。そのため被災地への通話がつながりにくくなることがあります。

そこで活用されるのが、災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板です。災害用伝言ダイヤルは、伝言を録音・再生するサービスで、固定電話だけでなく、携帯電話や公衆電話からも使用可能です。災害時は、自ら安否情報を発信するように心がけてください。



- 録音方法**
- ①災害用伝言ダイヤル（171）にかけます。
 - ②録音する場合は、ボタンの「1」を押します。
 - ③自分の電話番号を、市外局番から押してください。
 - ④伝言を録音します。伝言1件あたり、30秒録音できます。1つの電話番号で、10件まで伝言を残すことができます。
- 再生方法**
- ①災害用伝言ダイヤル（171）にかけます。
 - ②再生する場合は、ボタンの「2」を押します。
 - ③連絡を取りたい人の電話番号を、市外局番から押してください。
 - ④伝言が再生されます。
- ※伝言の録音・再生には、通話料がかかります。
 ※伝言の録音保存期間は48時間です。それ以降は、伝言が消去されます。
 ※災害時は、携帯電話をなくしたり電源が入らなくなるなど、電話番号が分からなくなることも考えられます。あらかじめ、家族や親戚の電話番号をメモしておくことも対策の一つです。



危機管理

地震発生!そのとき、自分に何ができるのかー

各地で甚大な被害をもたらした東日本大震災。被害を伝えるニュースの中に、中学生くらいの女の子がいました。肩まで伸びた黒い髪。部活だったのか、ジャージのような服装でした。女の子は変わり果てたまちに向かって、「おかあさん、おかあさん」と何度も呼びかけます。しかし返事はなく、泣き出す女の子を残して映像は切り替わりました。